

薫風・満天フィールド交流塾

第2回活動

平成19年12月16日実施

ハタハタ鮓製造体験 活動報告

(写真①)生ハタハタの頭と内臓を取り除く

(写真②)切り身を作る際すべらないように水洗い

(写真③)漬け込む大きさに斜めに切った

(この後、通常は3日間程度水洗い)

(写真④)寿司に入れる笹の葉カット

(写真⑤)人参の加工、生姜のせん切り

(写真⑥)重石で水洗いした切り身の脱水作業

(写真⑦)ご飯に麹・塩4%、人参のすりおろし・生姜・酒・みりんを加え丁寧に
攪拌して原料完成

(写真⑧)桶に笹の葉を敷き原料2kg入れ手で押して平らにし、
菊・フノリ・人参を敷く。さらに笹の葉を敷き繰り返し一杯にする
発酵が失敗しないよう最上部に笹の葉を隙間なく
敷き、捨て飯をかけて作業終了。熟成期間は
約3~4週間を要するので、その間は武田水産で
保管していただき、完成後引き取り試食することとした。

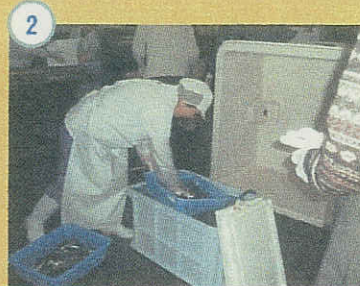
参加者数 学生5名、教職員7名

活動評価

大変楽しかった3名、楽しかった4名、普通1名、
あまり楽しなかった0名、楽しなかった0名

活動成果(意見)

- 3週間後が待ち遠しい。ハタハタ鮓は「寿司」とは異なり、捨て米などについて、米をメインにしていないことから、副食として、酒のつまみとしても用いられることがわかった。
- 重いものを持つなど意外と重労働も作業工程の中にあり、大変であるを知った。ほとんどの作業が手作業なのに驚いた。
- 大量に獲れたハタハタを長期間食べるために、保存法など様々な工夫や知恵がこの「ハタハタ鮓」には詰まっていた。
- 地元産の素材を生かしてつくる昔ながらの食品であることがわかった。
- 漬け込み前に数日間の血抜き、塩でしめる、水で塩抜き、酢漬、脱水の行程があることがわかった。
- 分量の目安を教えてもらった。意外に簡単で家でも作れるなと思った。
- ハタハタ鮓を自分から進んで食べようとしたことが今まであまりなかったので、見た目しか知りませんでした。今日は製作工程の中で味見をした。3週間後に試食をしてハタハタ鮓がどんなものか、話れるようにしたい。



薫風・満天フィールド交流塾

第3回活動

平成19年12月23・24日実施

アイスクャンドル 活動報告

12月23日、午後1時から大湯キャンパスでアイスクャンドルづくり

(写真①)プラスチック容器等に高さをあわせて切った塩ビ管(輪ゴムを挟む切り込み、下にパラフィンを張り水が入らないよう加工したもの)を入れ輪ゴムで中心に固定し型をつくる。絵の具を溶かして色づけした水と氷を入れる。(短時間で凍らせるために今回は粉砕氷を利用)冷凍庫で凍らせる。一部は液体窒素で凍らせ、冷凍庫で保管。凍ったプラスチック容器の表面と芯となっている塩ビ管にお湯をかけ、氷を取り出して冷凍庫へ保管。

12月24日、午前8時30分から大湯キャンパスでアイスクャンドルづくり。

当初計画ではこの日のアイスクャンドルづくりは午後1時から予定だったが、作業が遅れていることから、学生が進んで午前8時30分から作業した。

(写真②)アイスクャンドルの土台となる板を加工した。(15cm四方に作ったベニア板の中央にネジ釘を打ち込みロウソク台とし、縁に釘を打ち込んで傾斜面に据え付けた)。午後からは飾り付けのレイアウトを考え準備、「2007Xmas」の文字を表現することとした。学生寮前の庭の傾斜部分を利用し、文字が立体的に見えるように板にロウソクを立て、文字の形に配置。ロウソク台の上から氷の型をかぶせてアイスクャンドルが完成し点灯したが、当日は風が強クロウソクに点火してもすぐに消えてしまうことから延期も検討した。しかし、学生のどうしても完成させるとの強い意志から、風あたりを弱めるためロウソクを短くするなどの工夫をして挑戦し、午後6時頃には大方点灯することができた。

寒くて延期することも検討されたこと、風が強ク点灯に四苦八苦するなど条件はきわめて悪かったが、悪天候を克服しての点灯が学生の充実感を一層高めたのではないかと。

参加者数 学生3名、教職員3名、ギャラリー、協力者5~6名

活動評価

大変楽しかった2名、楽しかった0名、普通0名

あまり楽しくなかった0名、楽しくなかった0名

活動成果(意見)

○また、やりたい。結婚して初Xmasにもやりやい。

○最初はどうなるのか不安だったが、みんなで協力して自分たち独自の、世界に一つしかないアイスクャンドルを作ることができて楽しかった。

○途中、雨が降ってきたり、氷がかたまらなかったり、風が強くて点灯式を盛大に行えなかったりといろんなアクシデントがあったけど、大きな達成感があった。

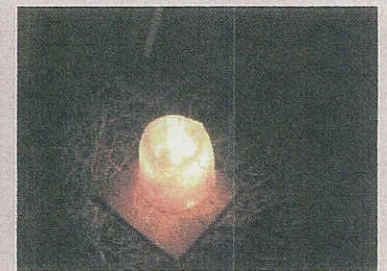
○飾り付けは寒かったし、風が強くて大変だったけど、24日にできて良かった。諦めなくて良かった。厳しい条件の中でも諦めずに工夫してその場を切り抜ける能力が身についた。でも、私が諦め悪くて、皆を寒い寒い思いさせちゃったのは反省してます。でも、皆であんなに頑張って笑顔で作り上げたモノだったからどうしても諦めたくなかった。そんな仲間とこの体験ができて良かった。

○アイスクャンドルの作り方がわかった。

○容器から抜くときのコツを身につけた。

○色付けの時に良い色を作ろうと頑張ったら、小学校の時の図工の時間を思い出した。とっても楽しかった。

○上手にできたし、コツをつかんだと思うので、また、もう一度挑戦したい。もう一回やりましょう。



平成20年度薫風・満天フィールド交流塾活動メニュー(案)
 (学生、教職員および塾が平成20年度に活動を希望しているメニュー)

活動メニュー	活動内容	活動の概要	提案元		
自然・農との交流	自然との触れあい (外遊び)	山菜採り	季節毎の山菜とり体験と食に至るまでの体験	学生	
		釣り	河川、湖水、海釣り体験	学生	
		山歩き	山歩きによる自然とのふれあい	学生	
		天体観測	天体望遠鏡での宇宙観測	学生	
		雑草観察	雑草観察と利用	学生	
		いかだ	いかだづくりと川くだり	学生	
		水路探索	ボートによる河川等水路探索	学生	
		カヌー	手造りカヌーで河川・湖水の散策	学生	
		キャンプ	キャンプ体験	学生	
		ロッククライミング	ロッククライミング体験	学生	
		ロードバイクキャラバン	ロードバイクで長距離ツーリング	学生	
		雪中散歩(スキー)	クロスカントリー体験	学生	
	アイスキャンデル	アイスキャンデルをつくり幻想的な体験	学生		
	農とのふれあい	堆厩肥作り	食物残渣を利用した堆厩肥づくり、堆厩肥からバイオエネルギー作り	学生	
		野菜・作物づくり	土作りから収穫、試食までの体験	学生	
		ラジコンヘリ	ラジコン操縦技術の習得と農業への利用	学生	
		蜂蜜	養蜂と蜂蜜づくり体験	学生	
		ハーブ園	多くの種類のハーブづくり	学生	
		動物とのふれあい	各種動物の飼育とふれあい	学生	
	食品加工	乳製品	乳製品の製造体験	学生	
		発酵食品づくり	どぶろく・味噌・納豆・ヨーグルト等	学生	
		燻製	ベーコン、いぶりがっこ等の製造試食	学生	
		漬物	各種漬物の製造	学生	
		各種料理づくり	地産地消をメインとしたレシピづくり、スローフード運動の理解	学生	
		ものづくり	村づくり	活動拠点・蛍生息地・ハーブガーデン等環境整備づくり	塾
	日曜大工		木工、鉄工によるものづくり体験	塾	
	陶芸		七宝焼き等陶芸づくり	学生	
	ソーラーエネルギー利用		ソーラーカーづくり	学生	
	バイオエタノール		バイオエタノール製造と利用	学生	
	人との交流		サークル活動	大学農業系・自然系サークルとの交流	県内・外の大学の自然系・農業系サークルと秋田県立大のサークルとの交流
		花壇作り		各地の観光総合案内所等に薫風・満天フィールド交流塾の花壇作り	塾
		新聞づくり		新聞づくりによる塾活動の社会への発信	学生
テレビ局運営		キャンパステレビ 放送番組制作		学生	
交流塾まつり		薫風・満天フィールド交流塾 夏まつり	学外交流・バーベキュー・竿灯・釣り・カヌー・気球・その他いろいろ体験を提供	塾	
交流塾まつり		薫風・満天フィールド交流塾 雪まつり	学外交流・雪中散歩・かまくら・雪合戦その他いろいろな体験提供	塾	
社会との交流		農家との共同生活	地域農家との交流	生産現場で活躍している農業者との交流	塾
		野外ライブ交流	一泊二日の野外交流	男鹿市の漁村で野外ライブ(和太鼓他)と学外交流	塾
		郷土食体験	ハタハタ漁見学、ハタハタ鍋	ハタハタ漁現場見学、ハタハタ鍋の試食	塾
			ハタハタ壽し製造	現場での加工技術習得、試食	塾
	きりたんぼ鍋づくり		きりたんぼづくりと試食	学生	
	郷土の文化、芸能体験	尺八づくりと演奏	塩ビ管尺八手作り・演奏講座で学ぶ	教職員	
		ケラ作成交流	現場で作成体験・若者との交流	塾	
ナマハゲ体験		男鹿の奇習ナマハゲ体験交流	塾		

薫風・満天フィールド交流塾の運営方法(平成19年11月9日決定)

1. 運営方針

塾生(学生)はもとより、交流塾に関わる教職員も生き生きと活動できる「ゆるやか・しなやか運営」を目指す。

2. 塾の構成

1) 塾生(学生、教職員)

2) 塾運営チーム

- ・塾長：交流塾の運営および塾活動の統括
 - ・副塾長(2名)：塾長への助言・塾長代理
 - ・塾長補佐(嘱託職員)：交流塾の管理運営、連絡調整および事業の実施支援
 - ・塾庶務(嘱託職員)：塾の事務・経理、連絡調整および事業の実施支援
 - ・塾推進員：担当分野*1の企画と実施により塾の運営を担うとともに、活動メニューの実施を支援する。塾長、副塾長は塾推進員を兼務する。
- (*1) 担当分野例：塾生募集、活動メニュー整備、施設整備、大学間ネットワーク
・学生フォーラム、地域交流・広報、評価システム、予算など。

※塾運営チーム会議を月に1回開催する。

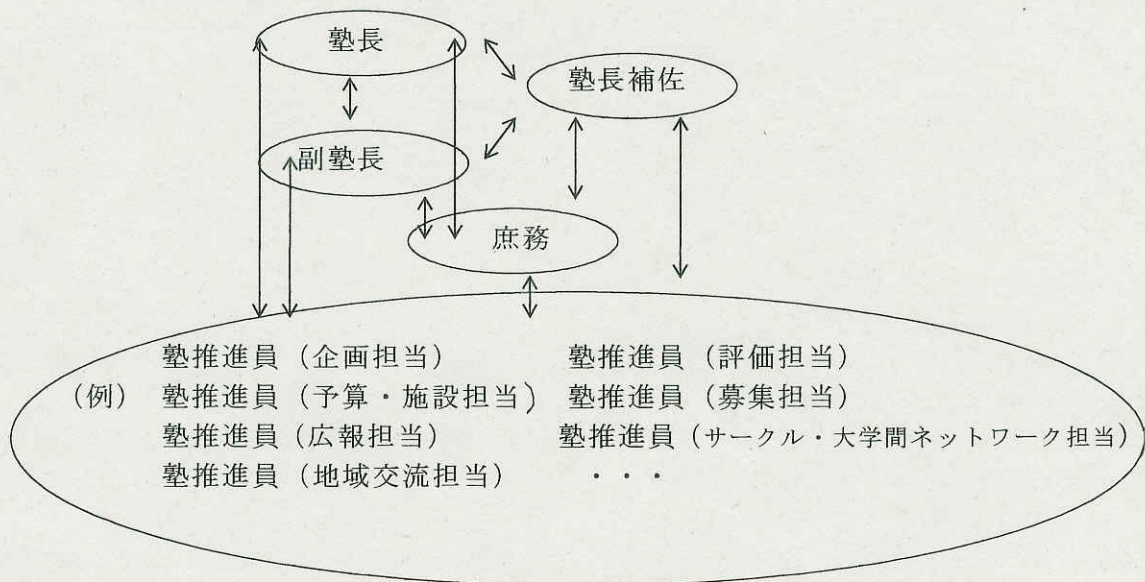


図1 薫風・満天フィールド交流塾運営チームの組織

3. 塾生の募集

1) 活動開始時の募集(2007年11月)

- ①ポスター、パンフレット等により、学内に周知を図る。
- ②学科長会議等を通じて全学部への協力を要請し、講義等の機会に学生への周知を図る。
- ③学生は、塾事務局に活動を希望する分野(自然・農との交流、人との交流、社会と

の交流) および具体的な内容を所定の用紙に記入して申し込む。また、活動とともにしたい教職員がいる場合は、その氏名も合わせて知らせる。なお、募集に際して塾生の義務*2を明示する。

(* 2) 塾生の義務：活動の記録・報告、塾生活動報告会および交流塾祭への参加、人間力向上に関する評価への協力。

※今年度の活動期間は、原則として12月から3月とする(来年度以降の継続可)。

2) 活動開始以降の募集(2008年1月~)

- ①塾の概要活動内容を「交流塾テレビ局」等を通じ学生へ周知し、入塾を希望する学生を募る。
 - ②学生は、既存の活動への参加を希望する場合は、その旨塾事務局に申し込む。
 - ③新規の活動を希望する場合は、上記1)の③に準ずる。
 - ④その他、具体的な活動希望が纏まっていない場合も、塾事務局で随時相談に応じる。
- ※活動期間は、原則として4月~3月とする(次年度以降の継続可)。

4. 活動メニューの設定から実施まで

活動メニューは、おおよそ次のような過程で設定・実施する。

- ①次の3つの方法により活動メニューを企画する。
 - A. 学生の要望
 - B. 教職員の提案(教職員の趣味や特技に基づくものなど)
 - C. 交流塾の企画(自然・農との交流、人との交流、社会との交流に繋がるもの)
- ②活動メニュー毎に、内容、予算等の素案を作成し、全学的な協力のもと、指導・協力者(以下、リーダーとする)を募る(可能であれば、リーダー候補者も交えて素案を作成する)。
- ③各活動メニューの素案、メンバー、リーダー候補者を検討し、実施の可否を決定する。
- ④活動メニューの実施に必要なリーダーとして、本学教職員や地域住民等に文書により活動への協力を依頼する。
- ⑤申し込みを行った学生には実施が決定された活動メニューを通知し、全学的にも周知する。
- ⑥活動メニューの実施に必要な指導・協力者と、必要な場合は学生を交えて内容、目標、予算等の計画を確認し、必要に応じて修正の上、活動メニューを実施する。
- ⑦活動メニューの実施にあたっては、各実施日の翌日までに活動報告を集約し、塾生以外の学生や教職員、地域住民からの評価や苦情も受け付ける体制を整える。
- ⑧進捗状況をはじめ、問題点や課題を随時把握し、必要に応じて対応する。

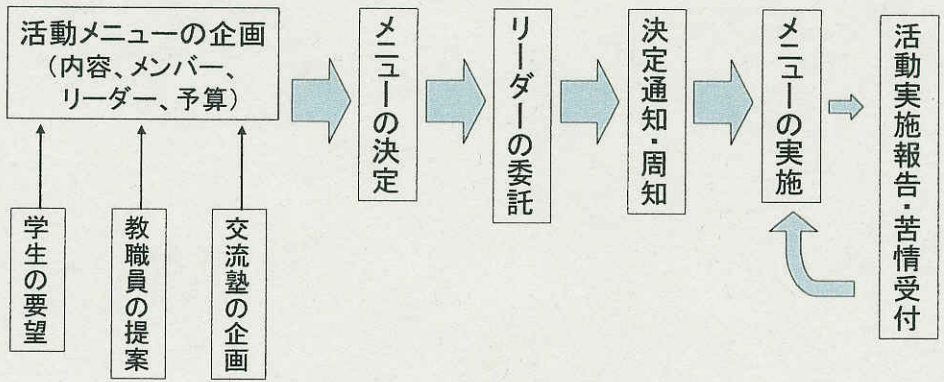


図2 活動メニューの設定から実施までの流れ

塾運営チームメンバー(平成20年1月11日現在)

- 顧問 ** * フィールド教育研究センター 教授
- 塾長 ** * (担当分野：統括、塾生募集) アグリビジネス学科 准教授
- 塾長補佐 ** * (塾の管理運営、学生・教職員・地域住民との連絡調整、
学生支援事業の実施支援) 嘱託職員
- 副塾長 ** * (活動メニュー整備・企画、施設整備) アグリビジネス学科 准教授
- 副塾長 ** * (大学間ネットワーク、学生フォーラム、拠点整備、シンポジウム)
フィールド教育研究センター 准教授
- 塾推進員
- ** * (塾生募集) 総合科学教育研究センター 教授
- ** * (塾生募集) 応用生物科学科 教授
- ** * (塾生募集) 生物生産科学科 助教
- ** * (塾生募集) 生物環境科学科 准教授
- ** * (人間力向上評価) 教務・学生チーム シニアスタッフ
- ** * (広報・地域交流、書籍) アグリビジネス学科 准教授
- ** * (予算作成・管理、拠点整備) アグリビジネス学科 准教授
- ** * (評価システム、報告書、書籍) アグリビジネス学科 准教授
- ** * (サークル活動、大学間ネットワーク、学生フォーラム、シンポジウム)
アグリビジネス学科 准教授
- 庶務 ** * (塾の事務・経理、学生・教職員等との連絡調整、学生支援事業の
実施支援) 嘱託職員
- 塾支援員
- ** * (木工関係メニュー) 木材高度加工研究所 教授
- ** * (虫あそび関係メニュー) 生物生産科学科 准教授
- ** * (魚関係メニュー) フィールド教育研究センター 教授
- ** * (食関係メニュー) アグリビジネス学科 教授

顧問～塾推進員が「塾支援員」を兼ねる場合がある。

塾支援員が増えることが期待される。

これからの薫風・満天フィールド交流塾

私の講義でのことですが、交流塾の活動に参加した学生の何人かで受講態度に変化がみられました。すなわち、目の輝きが、交流塾活動への参加の前後で変わりました（2名）。また、いつも眠っていた学生が、いくつかの活動への参加を経て、直近の講義ではとうとう、最後まで起きて聴くようになりました（1名）。そのような話を塾運営チームの先生たちに話すと、皆さん「本当かな～？偶然じゃない。」と、とりあってくれません。しかし、先日行われた秋田県立大学FD講演会で、演者の大関邦夫・前弘前大学副学長は、「講義外での学生との付き合い、そして、そこでの教員という立場を離れた生き様をみせることは、学生の講義や教員への意識を変化させると期待できる。また、学生に社会性を身につけさせる上でも重要である。」と述べておられます。「感性」、「挑戦心」、「行動力」というものを評価するのは容易ではないと思います。いろいろな手法を学び・使って学生の諸能力を評価し、さらなる人間力の向上に生かしたいと考えております。

ところで、平成20年度の「交流塾活動メニュー（案）」をみると、学生の塾への期待が伝わってきます。私どもは、これらの活動メニューを行うなかで、いくつかのサークルが誕生することを望んでいます。それらのサークルとは、例えば「農業生産と食に取り組むサークル」、「自然を楽しむサークル」、「活動拠点作りに励むサークル」などです。そして、これらの塾生の力により、「交流塾まつり」や「全国農業学生フォーラム」などが開催され、また活動成果の展示・公開をとおし、地域住民や社会との交流が進むことを期待しています。

学生がいつそう生き生きと輝く「交流塾」を、学生とともに創りあげたいと考えております。

皆さまのご指導、ご協力をお願いいたします。

平成20年2月18日

薫風・満天フィールド交流塾

塾長 露崎 浩